

2023年度 第1回秋田市中心市街地活性化協議会開催結果

2023年6月1日（木）10時00分より、秋田商工会議所ホール80において、秋田市中心市街地活性化協議会を開催しましたので、その内容について公表します。

（議事内容）

- 場 所 秋田商工会議所 7階 ホール80
- 出席者 委員：18名 オブザーバー：20名 計38名
- 協 議
- （1）2022年度事業報告（案）・収支決算（案）について
（監査報告）
 - （2）2023年度収支補正予算（案）について
 - （3）その他
- 報 告
- （1）秋田市中心市街地活性化プランに関する事業等の進捗
 - ①千秋公園大手門の堀遊歩道整備について
 - ②都市計画道路千秋山崎線の進捗状況について
 - （2）秋田市中心市街地活性化協議会事業の進捗
 - ①アートなまち歩き発信事業について
 - ②広小路バザールについて
 - ③2023 千秋蓮まつりについて
 - （3）秋田市中心市街地の賑わい創出に向けた交通環境改善調査の結果
 - （4）その他
- 情報提供
- （1）東北経済産業局からの事業紹介
 - （2）東北地方整備局からの事業紹介

（発言内容）

【社会長の開会挨拶】

- ・「これが秋田だ！食と芸能大祭典」は大盛況で、事務局から9万5千人との報告であったが、10万人と言っても遜色ないくらい賑わっていた。今後、中心市街地では様々な事業（千秋蓮まつり、広小路バザール等）の開催が予定されているが、中心市街地の賑わいの起爆剤となることを期待するとともに、継続する必要性を強く感じている。
- ・4月から秋田中心市街地活性化プランに基づく各種事業がスタートし、本計画の5つの目標に沿って、中心市街地がより魅力的で活力あるまちへと変化していくことを期待する。
- ・外航クルーズ船の寄港が再開され外国人の姿も多く見かけるようになり、県内外・国内外のお客さまに魅力を発信する大事な機会だと捉えている。

- ・本日は、2022 年度事業報告・収支決算、2023 年度収支補正予算について協議後、中心市街地活性化プラン等に関する進捗状況、昨年度秋田商工会議所が実施した中心市街地の賑わい創出に向けた交通環境調査結果の報告、東北経済産業局・東北地方整備局の支援施策の情報提供を予定している。

皆さまから忌憚のない意見をお願いしたい。

【協 議】

(1) 2022 年度事業報告（案）・収支決算（案）について

事務局が、協議会および芸術文化ゾーン活用研究会の開催やアートなまち歩き発信事業等の実施など、2022 年度の事業報告（案）を説明した後、収支決算（案）について説明した。

佐々木・後藤両監事欠席のため、事務局から監査報告を行い、原案どおり承認された。

(2) 2023 年度収支補正予算（案）について

事務局が以下のとおり説明し、原案どおり承認された。

- ・収入の部は、預金利息の計上により 5 円増額補正し、補正後予算額が 125,703 円となり、収入合計金額が 2,125,723 円となる。
- ・支出の部は、事業費の情報発信事業において、秋田魁新報社が毎月 1 回企画している秋田市中心市街地イベントカレンダーにアートなまち歩きウェブサイト広告を年 4 回掲載することとし、掲載費用 55,000 円を増額補正し、補正後予算額が 1,960,000 円となる。併せて、予備費の当初予算額を 54,995 円減額補正し、補正後予算額が 70,723 円となり、支出合計金額は収入合計と同額の 2,125,723 円となる。

(3) その他

仲小路振興会の藤井委員が以下のとおり発言した。

- ・先般の秋田魁新報によると、新成人 100 人を対象としたアンケート調査「秋田は明るいか明るくないか」の 2 年前の結果は「明るい」が 41%、「明るくない」が 58%だった。3 年前の「明るくない」76%の結果と比較すると、かなり明るくなってきた。
- ・今年は、更に明るくなったイメージだが、駅前周辺はマンション等が相次いで建設されているが、緑屋ビルは異質な感じがする。
- ・また、木内百貨店も閉店から 4 年経過したが、改良の目途が立っていない。先代の社長は、所有する駐車場をなかいちのオープン時など好意的に無料で開放してくれたが、現在は広小路でのイベント開催時なども貸してもらえない状況。オーナーが県外に住んでいるため、地元の環境が分からないのか、文書で要請を出したが丁寧な断りの文書が返ってきた。これまで木内は地域貢献をしてきたが、現在に至ってはデメリットが多い。
- ・商工会議所あるいは行政が中心となり、オーナーに折衝することはできないのかと考えているので、その点を配慮していただきたい。

辻会長が以下のとおり発言した。

- ・難しい問題であると認識しているが、緑屋については私も状況が分からない。
- ・木内については、オーナーが長期にわたり不在という状況が続いており、要請に応えていただくことは困難である。
- ・由々しき問題だと認識しており、商工会議所として何ができるか分からないが、検討すべき課題であるため、その点について商工会議所あるいは中心市街地活性化協議会として動くのがよいかも含めて検討する。

【報 告】

(1) 秋田市中心市街地活性化プランに関する事業等の進捗

① 千秋公園大手門の堀遊歩道整備について

秋田市公園課の小野課長が以下のとおり報告した。

- ・実施計画に至るまで、商工会議所をはじめ様々なご意見をいただきながら進めてきた。今回は最終的な整備内容およびスケジュールが固まったことから説明する。
- ・遊歩道は、浮棧橋形式のため地盤の影響を受けにくい構造となる。施工延長が254.2m、幅員が標準で3m。折れ曲がっている遊歩道の部分が6か所あるが、そこを鑑賞スペースとする。また、西側にも取り付けるが、秋田市文化創造館の一体的な利用を図る目的で115.9㎡のデッキを整備する。
- ・付帯施設として、平面図に遊歩道から矢印のように表記されているものがあるが、これが浮棧橋を固定するアンカーとなる係留施設である。浮棧橋には、左右両側に高さ0.8mの手すりと足元を照らすフットライトを設置する。
- ・平面図右側の東側ポケットパークは、薄茶色の着色で表しているが、木製デッキの不朽が進行していることから、デッキ部分の改修工事を予定している。
- ・周辺施設や背景等の景観に配慮し、床板はベースカラーにダークグレーを採用したので、若干落ち着いた感じになると考えられる。
- ・整備スケジュールとしては、5月に施工業者との仮契約を締結しており、6月議会で承認された場合、7月上旬に工事契約、蓮の開花時期が過ぎた10月頃現場工事に着手し、令和6年3月の供用開始を予定している。
- ・現場の施工は、秋田市文化創造館をはじめあきた芸術劇場ミルハス等、周辺施設や関係者等に工事について相談等させていただく際はよろしくお願ひしたい。

② 都市計画道路千秋山崎線の進捗状況について

秋田市駅東事務所の佐々木所長が以下のとおり報告した。

- ・都市計画道路千秋山崎線は秋田駅の北側、千秋城下町と手形字山崎を結ぶ線路をアンダーパスする路線で、秋田駅東西の都市内交通の円滑化を目的に、施行中の秋田駅西北地区及び秋田駅東第三地区土地区画整理事業において整備を進めている。
- ・未整備である都市計画道路千秋久保田町線交差点から都市計画道路手形東交差点まで、延長365.4m、幅員25~43m。
- ・総工事費は約90.3億円を予定しているが、昨今の燃料・資材価格の上昇により、増額が予想

される。本市の財政状況の厳しさも増しており、一層の縮減に取り組む必要がある。

- 未整備区間の着工までかなり年数を要したが、令和9年度末の完成を目指して、現在は JR 東日本へ委託のうえ秋田駅構内の線路下で工事を進めている。
- 市が施工する両側の斜路部は、JR 工事完了までヤード部分が空かないため、同時施工を前提としていた令和9年度末までの完成は難しい。
- 財政状況も勘案の上、今年度中に整備スケジュールの見直しを行う。
- JR 委託工事の内容を簡単に説明すると、線路を含む鉄道敷は直接上から掘ることができないため、通常は鉄道敷外の両側に立坑と呼ばれる縦穴を掘り、この立坑から横に掘り進めて必要な空間を構築する。
- 本工事は、令和元年10月12日付けで、JR 東日本と施工協定を締結し、令和2年3月に着工している。委託工事の内容は記載通りで、進捗率は令和4年末協定額ベースで29.4%となっている。現在の作業は列車運行後の施工となるため、来年7月まで続く予定である。

<意見・質問>

秋田大学の篠原委員が以下のとおり発言した。

- 遊歩道の整備について、浮棧橋にして中土橋・文化創造館側と広小路側の水面が完全に分割される形になるのか、それともある程度は何か所か表層流が行ったり来たりできるのか、教えていただきたい。

秋田市公園課の小野課長が以下のとおり発言した。

- 水面に浮かべるフロートは、この図面においては台形状で6個ある。横幅50cmと縦2mのものを繋ぎ合わせた形になるので、表面上の水の流れについては確保できる。

秋田大学の篠原委員が以下のとおり発言した。

- 水が淀んでしまうと奥の蓮が全く咲かなくなることが考えられる。網走市のアケシソウが群生する観光地では、市役所が頑張っって歩けるようにした結果、仇となり全滅しかけたという事例があった。
- 蓮を鑑賞するために整備したにもかかわらず、片側では蓮が綺麗に咲き、反対側では全く無くなってしまふようであれば本末転倒である。表面上の水のやり取りだけでなく、池の中の生態系も重要となるのではないか。

NPO 法人アーツセンターあきたの藤委員が以下のとおり発言した。

- 遊歩道は、中心市街地の回遊を作るという点で非常に重要な場所であり、特に、アートを活かしたまちづくりという意味ではとても重要。気になるのは遊歩道の前後で、秋田駅前からどのような回遊を意識しているのか。
- 遊歩道を通して秋田市文化創造館から千秋公園へと繋がる道筋だと思うが、遊歩道を含めた前後にサイン等の設置を現在検討しているのか。
- また、駅から遊歩道を通して、どのような回遊を想定しているのか。あるいは、その前後にどのような拠点ができるのか。予見等を含めて検討状況、特にサイン計画についてお聞きしたい。

秋田市公園課の小野課長が以下のとおり発言した。

- これまでの話と重複するが、あきた芸術劇場ミルハスや秋田市文化創造館等へのアプローチとしての拠点という考え方である。
- 遊歩道は、要所を活かしきれていない各施設へのアプローチと考え、サインは秋田市で設置を検討する予定で、秋田市文化創造館側で現在のところ考えている。
- 佐竹史料館から遊歩道、千秋公園という動線も期待されるため、周辺のサインと併せて計画している。

NPO 法人アーツセンターあきたの藤委員が以下のとおり発言した。

- 市内の回遊性等非常に重要なポイントとなるので、全体的なサインを含めて、ここから派生するようにしっかりと整備できるよう連携を取っていただきたいので、秋田市でも今から他部署との協力を図って欲しい。

辻会長が以下のとおり発言した。

- 遊歩道は 24 時間開放されるのか。また、フットライトは夜間も点灯する予定か。
- お堀に落ちる危険性を想定した時に 80cm の手すりであれば乗り越えられるので、監視員がつくか、飛び込んだ人がいた場合救命具を備え付けるといったリスクヘッジは考えているのか。

秋田市公園課の小野課長が以下のとおり発言した。

- 公には、冬季期間は閉鎖し、夜間はフットライト照明も併せて通行止めとしている。
- 時間帯は、あきた芸術劇場ミルハスの閉館時間や秋田市文化創造館のイベント時間等も考慮する必要があるため、検討を進め今年度中に報告する。
- 遊歩道の 2 か所に救命用具を設置するなど、安全面への対策も行う方向で進めている。

(2) 秋田市中心市街地活性化協議会事業の進捗

①アートなまち歩き発信事業について

事務局が以下のとおり報告した。

- アートなまち歩きウェブサイトの利用者増加と中心市街地の魅力発信及びまち歩きの推進に向けて、簡易版リーフレットへのリニューアル、ステッカーの制作・配布、パンフレットスタンドの増設とスタンド上部へのポップの設置、秋田魁新報へのウェブサイト広告掲載を行う。

②広小路バザールについて

事務局が以下のとおり報告した。

- 中心市街地の賑わい形成と県内事業者の中心市街地への出店機会創出を目的に、今年度も 2 回開催する。1 回目は 7 月 17 日、2 回目は 10 月 8 日、開催時間は 10～15 時。1 回目の出店予定者は昨年を上回る 72 コマで約半数が新規出店者となる。周辺施設や関係団体と連携して開催に向けて準備を進める。

③2023 千秋蓮まつりについて

事務局が以下のとおり報告した。

- 今年で3年目を迎え、夏季に開催される各種イベントと連携を図り、期間中の交流人口の拡大とナイトタイムを含む継続的な賑わい創出を目的に開催する。秋田観光コンベンション協会主催の蓮の花ライトアップは、7月14日から8月31日までの49日間。ライトアップ期間中にSNSを活用して飲食店への来店機会を創出するグルメクーポンは秋環連ほか関係団体と連携を図り現在企画を進めている。千秋公園夜観光は、7月28日と29日の2日間なかいちにぎわい広場で観光客等を対象とした特別観覧席を配置するほか、地元市民にも本番さながらの竿燈演技を披露する。秋田市文化創造館屋外エリアで夜の中心市街地の魅力を発信するナイトマーケット、LOTUS FESTIVALは7月14日と15日、8月19日と20日の計4日間を予定しており、7月14日は蓮の花ライトアップの点灯式を予定している。蓮の花フォトコンテストは今年度新たに関係団体等から協賛を募り特別賞を創設するなど更なる拡充を図る。また、期間中に中心市街地で開催される各種イベントとの連携や一体的なPRで、中心市街地の交流人口の拡大と賑わいの創出を目指す。

(3) 秋田市中心市街地の賑わい創出に向けた交通環境改善調査の結果

事務局が以下のとおり報告した。

- 近年の中心市街地における交通環境の変化や賑わい創出の観点を踏まえ、秋田商工会議所では「中心市街地の賑わい創出に向けた交通環境改善調査事業」を秋田大学の協力のもと実施し、2023年3月に調査結果を取りまとめた。
- 1970年代前半、中心市街地で慢性的な交通渋滞が発生していたことから、1974年に広小路・中央通りを一方通行規制し渋滞緩和が図られたが、その後、日赤病院の移転や大規模店舗の撤退等により中心市街地の集客力が低下。一方で、周辺の道路交通網の整備が進み、交通量が分散されることにより渋滞が緩和されている。
- こうした変化をふまえ、中心市街地の交通環境について、従来の自動車通行のための観点だけでなく、賑わい創出の観点から検証する必要があると捉えている。
- 県・市の関連部署で構成される「中心市街地の交通のあり方に係る研究会」において、2019年3月に取りまとめられた調査結果では「広小路と中央通りの一方通行規制の解除」について、「交通渋滞が懸念されるか、解除のために多額の用地補償費および工事費が発生するため、現時点での規制解除は困難」としているが、一方通行解除の判断材料が渋滞発生の有無に偏るなど中心市街地の賑わいの観点が不足している。
- 広小路と中央通りの交通量は減少が続いており、2021年に秋田駅前と手形方面を結ぶ「千秋久保田町線」が開通し、対面通行となったことで広小路（久保田町交差点）の交通量はさらに減少した。
- 「中心市街地の交通のあり方に係る研究会」での検討資料とするため、秋田県都市計画課が2018年に実施した対面通行化のシミュレーション結果では、5つの車線のケースが想定されている。このうち「ケース2」の現行の3車線を維持したまま、内側（反時計回り）2車線、外側（時計回り）1車線とし、外側車線から中央街区への右折進入を禁止する方法が、この中では交通機能への影響が最小に抑えられると捉えている。
- 昨年9月に実施した広小路ハザールの来場者を対象にアンケートを実施し、193名から回答を得た。ポイントとして、「中心市街地へ訪問しづらい」との回答が33%、要因として「駐車料金が低い」「駐車場が止めにくい」「一方通行など道路が分かりにくい」ことが挙げられる。

- 一方、イベント（広小路バザール）をきっかけに、市内の居住地に関係なく中心市街地を訪れ、8割の方が複数の施設を回遊する行動をとっていた。また、当日の来街手段は混雑を想定して自家用車から徒歩や公共交通に一部シフトしていた。
- 広小路バザールについての印象や自由記述では、「人通りが多く賑やかである」「歩行者天国は歩きやすい」といった回答が多く寄せられ、中心市街地におけるソフト事業の重要性を再確認することができた。
- 対面通行化のメリット・デメリットを整理しているが、期待される効果として「中心市街地へのアクセス性の改善」と歩行者天国イベント等が開催しやすくなることによる「賑わいの創出」につながると考察する。
- 中心市街地に恒常的な賑わいを創出していくうえで、ハード事業とソフト事業の相乗効果が得られる仕組みを構築していくことが不可欠であり、広小路・中央通りの対面通行化は重要な手段であると捉えている。
- 秋田市中心市街地においても自動車通行の観点だけでなく、賑わい創出の観点で道路空間のあり方を見直す必要があり、広小路と中央通りの対面通行化についても、早期の検討が望まれる。理由として、秋田市外の方を中心に「一方通行など中心市街地の道路が分かりにくい」という声も多く、あきた芸術劇場ミルハスの来館者や新たに建設されるマンション入居者など、県外からも来街しやすい・回遊しやすい交通環境の構築が重要となること。広小路等を歩行者天国化する大規模催事の開催により、来場者の回遊性が高まり、面的な賑わいが創出されているとともに、周辺店舗の売上が増加し波及効果が生まれているほか、来場者からも歩行者天国の定期実施を望む声が挙がっていること。対面通行化により、交通規制時の迂回路が確保され、渋滞が緩和されることにより、歩行者天国の実施が容易となることが挙げられる。
- 対面通行化のためには、様々な対策を講じる必要があることから、対面通行化実現に向けた意識醸成や対応策の具体化を推進するために関係者による検討を深めていくことが必要である。
- 今後の取り組みとして、中央通り・広小路を対面通行化した場合の交通規制図（案）作成した後、交通規制図案をもとに中心市街地の賑わい創出に向けた交通環境のあり方について検討を進める。

秋田大学の日野准教授が以下のとおり発言した。

- 今回の調査のポイントの1つは、広小路バザールは回遊性の効果が非常にあったこと。
- イベント等中心市街地活性化に向けた仕掛けをするうえで、交通環境も含めて見直すことで様々な可能性が広がると考えられる。

辻会長が以下のとおり発言した。

- 秋田商工会議所において、中心市街地の交通量改善に向けた取り組みを皆さまから意見を頂戴しながら進めていく。

秋田大学の篠原委員が以下のとおり発言した。

- 交通量のある程度維持することは、中心市街地を含む秋田市全体としての問題となるのかもしれないが、場合によっては通過する車は少ないが賑わいが感じられるということもありえる。
- 車いすや松葉杖、家族連れ、若者、年配者も含めて多くの方が歩いている。中心市街地は歩き

回るまちとして、駐車料金は今よりも高く、代わりに近郊は駐車料金を安くし、郊外からも人が来られるようにする。

- 秋田市中心市街地は色々な魅力があるが、まだまだ工夫の余地がある。他都市に足を運んでもそのまちに縁のある昔の写真や映画など見られる場所が以外に少ない。様々な人が様々な写真を撮ったり、秋田を舞台にした映画なども撮ったりするが。
- 新たに秋田市中心市街地の住民になる方や来街する方、あるいは観光客などにある程度自由に見てもらって、魅力や愛着を感じてもらえるような博物館的な機能や展示機能を持たせた方がいいのではないか。
- 新たに建物を作る必要はなく、空いている建物や余裕があるスペースを活用して、昔から住む人が懐しみ、新たに市民になった人が中心市街地や秋田の土地柄を知ることができる場所が必要。このような場所があきた芸術劇場ミルハス、秋田市文化創造館、にぎわい交流館 AU 近辺にあると魅力的だと思う。

【情報提供】

- (1) 東北経済産業局からの事業紹介
- (2) 東北地方整備局からの事業紹介

閉 会